

立命館慶祥中学校・高等学校 2022 年度学校目標年度末報告シート

教育目標

【目的】「世界に通用する 18 歳」の育成 ⇒ 3C を体現できる人材 <u>Challenge Contribution Collaboration</u>
中学 好奇心旺盛で自ら進んで学ぶ姿勢をもった生徒の育成
中学 流行やムードに流されない、確かな価値観や判断力を身につけ、行動できる生徒の育成
中学 他人の立場や意見を理解した上で、自分の意見を述べるができる生徒の育成
高校 「自己教育力」の育成 常に「なぜ」を問い、知的探求心を持って主体的に学習する
高校 「自己表現力」の育成 豊かな感性、確かな知識をベースに他者と議論し深く学ぶ
高校 「自己啓発力」の育成 常に前向きに考え、反省・改善・行動できる自立型の人間

重点目標

I. 築き上げてきたブランド力を磨き、名実ともに三ツ星を目指す。
II. R2030 SP 構想へむけた土台作り SP 政策の点検と難関大学合格実績のさらなる向上
III. R2030 GL 構想へむけた土台作り 海外姉妹校・提携校との連携 ICT 活用 課題研究
IV. R2030 将来構想の具体化 R2030 カリキュラム、インフラ整備の具体化、田中学園立命館慶祥小学校との接続準備
V. 働き方改革のさらなる前進 スタートアップ 3 年の成果とさらなる挑戦
VI. 入試政策・社会連携のさらなる発展

I. 築き上げてきたブランド力を磨き、名実ともに三ツ星を目指す

中位目標		達成目標（当年度目標）	評価
1	学校課題の明確化タスクフォースの設定	(1) 顕在化した学校課題に対して、関係各所でのヒアリングをすみやかに実施する	◎
		(2) 課題の所在について週次の執行部会議で情報共有をはかる	◎
		(3) 課題解決へ向けてタスクフォースを随時設定していく	○
		(4) 課題解決の方向性について職場に周知徹底をはかる	△
2	生徒・保護者から高い授業評価を得る	(1) 学びの慶祥モデル 2022 を年度当初に示す	◎
		(2) 教科会議内で授業の質向上を意識した年間テーマを設定する	◎
		(3) 教科会議内で授業に関する情報共有や研究授業を実践する	△
		(4) コロナ禍を意識した公開授業週間の在り方を検討する	○
3	愛情が伝わる生徒指導、保護者対応を実践する	(1) ハラスメントに対する研修機会の設定 理解の促進	◎
		(2) 生徒・保護者からの問い合わせやご意見に対するクイックレスポンスの徹底	○
		(3) 保護者懇談会の実施（内容、機会保障）	○
		(4) 18 歳成人など社会情勢とリンクした生徒指導方針の見直し	△

II. R2030 SP 構想へむけた土台作り SP 政策の点検と難関大学合格実績のさらなる向上

中位目標		達成目標（当年度目標）	評価
1	東大・京大・医学部合格者の目標達成	(1) 職場全体に対して本校 SP 政策の周知と理解促進をはかる	○
		(2) 中 1～高 3 まで目標値を意識した進路指導を徹底する	△
		(3) 高 1 文理選択。高 2・高 3 志望大学決定に進路部が積極的に助言に入る	△

		(4)	進路部より進路指導学習会や分析会のご案内を行う	○
2	SP 政策の点検を実施する	(1)	講習政策に関する点検を実施する	△
		(2)	授業進度に関する点検を実施する	○
		(3)	模試政策に関する点検を実施する	△
		(4)	ICT 活用や家庭学習管理に関する点検を実施する	○
		(5)	進路指導方針に関する点検を実施する	△
3	高1～高2模試・ 中学模試において 全国と戦える生徒 を育てる	(1)	中1～高2に対して東京医合格を見据えた進路意識を育てる	○
		(2)	中1～高2に対して模試分析と分析会議を丁寧に実施する	△
		(3)	ICT を活用して家庭学習時間と実施内容の管理を徹底する	△
		(4)	SP 担当学会議を行い、SP 担当教員が定期的にコミュニケーションをはかれるようにする	△

III. R2030 GL 構想へむけた土台作り 海外姉妹校・提携校との連携 ICT 活用 課題研究

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	海外姉妹校・提携校をさらに拡大する	(1)	タイムゾーンを意識した複数の提携先ピックアップを行う	◎
		(2)	提携可能性がある学校に対して現地訪問を行う	◎
		(3)	海外校との交換留学やオンライン交流の機会を拡大する	○
		(4)	海外大学進路指導体制の研究を行う	◎
		(5)	TOEFL ITP®スコアの目標達成	◎
2	ICT を活用した学びを推進する	(1)	ICT 活用に関する視察派遣を行う	◎
		(2)	ICT 機器の点検と環境整備を行う	◎
		(3)	ICT 活用・DX による本校の諸課題へのアプローチについて議論する	○
		(4)	6 ヶ年を意識したメディアリテラシーを育てる	△
3	課題研究の体系化と高度化をはかる	(1)	課題研究の在り方に関する検討会を校内に設置する	◎
		(2)	SSH で積み上げたものを総括しどのように活用していくか検討する	○
		(3)	課題研究を統括する制度や組織の整備について検討する	◎
		(4)	授業評価アンケート等を用いて、課題研究の到達点と課題を洗い出す	△

IV. R2030 将来構想の具体化 R2030 カリキュラム、インフラ整備の具体化、慶祥小との接続準備

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	将来構想を見据えたカリキュラムの整備、インフラ整備計画	(1)	SP 構想を見据えた外部機関と連携したカリキュラムの整備	△
		(2)	GL 構想を見据えた外部機関と連携したカリキュラムの整備	△
		(3)	ボーディングスクール構想具体化のための国際寮政策の策定	△
		(4)	社会連携の可能性と収益事業展開に関する検討	○
2	慶祥小学校との接続準備を具体化する	(1)	小学校執行部と中高執行部の合同会議を定例化する	◎
		(2)	中学への接続に向けたフローの作成	○
		(3)	両校間の教員交流を活発化する（学校訪問）	○
		(4)	慶祥小学校の児童に対する交流企画の提案	×

V. 働き方改革のさらなる前進 スタートアップ3年の成果とさらなる挑戦

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	働き方改革3年間の到達目標を徹底する	(1)	スタートアップ3年目 2022年の達成目標を明示し徹底する	△
		(2)	単組労使懇談の定例開催により労使間で現状と改善について確認し実行する	◎
		(3)	執行部が超過勤務状況をこまめに把握し、早めのヒアリングと対処を実行する	△
2	さらなる働き方推進策を検討する	(1)	単組労使懇談の定例に開催によりアイデアを双方でだしていく	○
		(2)	勤務カレンダーに関する抜本的見直しについて検討する	○
		(3)	ICT活用・DXによる働き方の見直し、課外活動の委託に関する検討をすすめる	◎

VI. 入試政策・社会連携のさらなる発展

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	道内最難関の中学入試を実現する	(1)	大手中学受験塾とのさらなる関係強化 志願者数の確保	◎
		(2)	オウンドメディア、WEBサイト、入試イベントを活用した情報発信	◎
		(3)	英語検定・数学検定における学校目標の達成	△
		(4)	立命模試・中学入試問題に対する確かな評価を獲得する	○
2	第1希望で完結できる高校入試を実現する	(1)	成長を実感できる生徒寮の完成	○
		(2)	新海外研修への移行 海外研修旅行再開を目指す	◎
		(3)	RU・APU進学目標の達成 大学で活躍する	○
3	脱炭素キャンパス整備と将来構想を見据えた連携	(1)	部活動政策の見直し（外部人材活用、重点クラブ政策）	◎
		(2)	生徒の社会連携をサポートする校内体制の整備	△
		(3)	将来構想を見据えた新たな企業連携の構築	△
		(4)	脱炭素への貢献を意識したインフラ整備と環境教育への取り組み	×

達成状況

これまで慶祥が拡大成長してきた中で、手付かずになってきた様々な課題を洗い出すことができた交通整理の1年だった。課題に対して、タスクフォースを複数設定し、課題解決の道筋を探ったが、中には根が深いものもあり、顕在化した課題のうちいくつかは2023年度に持ち越しとしている。時代の要求に則した学び方の周知徹底や教科会の組織力の復活を目的に、学びの慶祥モデルを示し教科内で実践を積み上げていった。次年度以降も継続し、授業を評価される慶祥を目指す。働き方改革については、職場全体としては良い方向に向かっているが、一部教員の意識改革がうまくいっておらず、継続課題である。今年度は、ハーバード大学をふくむ過去最高の他大学進学実績と、RU・APUに課題研究で数々の成果を残した優秀な生徒を送り出すことができた。この結果を検証し、ノウハウを蓄積して、慶祥の価値を確かなものにしていきたい。

改善策

将来構想の推進、提携小学校との接続準備の前進、勤怠管理の徹底、カリキュラム改革、SP政策の点検と組織力強化。これら重点課題について、次年度は、専門人材の活用、専門部署の立ち上げ、分掌部長と執行部の兼任（SP担当教頭、教務部長兼主幹、小中連携担当教頭）、執行部と該当分掌の連携強化、校務分掌やSSH委員会や研修旅行委員会機能の再設計等の組織改革によって、着実に前進させていきたい。また、昨年度より継続となっているタスクの進捗管理や、学び方・生徒指導内規の見直し等、時代に則した校内整理についても、重点施策として実施していきたい。

学校関係者評価に関する事項

委員会 構成	委員長 青坂進一様（保護者会会長）
	委員 支部英孝様（江別市教育委員会委員長職務代理）、和田範能様（株式会社北日本広告社常務取締役） 小笠原正浩様（教育振興会会長）、大越高様（慶祥会会長）、久野信之常務、横澤広久部長、江川順一校長
開催日程	①2022年6月24日（金）AM @慶祥ミーティングルーム1
主な議題	②2023年1月20日（金）AM @慶祥ミーティングルーム1
評価・改善 事項	・展開授業やICT活用、協働的な学びの実践について高い評価をいただくことができました。 ・課外活動やコンテストでの実績など、生徒の全国・世界レベルでの活躍が継続されるよう激励していただきました。